令和元年度　伊勢市高校生議会記録

■日時

令和元年８月８日（木）午後１時00分～午後３時45分

■出席者

（大学生）

皇學館大学３年生若山裕紀、皇學館大学３年生濱口祥夏、皇學館大学２年生正後陽菜

（高校生）

１．宇治山田高等学校

１番　田中莉里加議員、２番　山本千夏議員、３番　田端あゆみ議員

２．明野高等学校

４番　岩佐凜議員、５番　海野涼二議員

３．伊勢工業高等学校

６番　小川歩佳議員（川北沙也加議員、欠席のため代理）、７番　田端稜平議員

４．皇學館高等学校

８番　松川歩夢議員、９番　濱岡愛弥議員、10 番　山村奈也議員

５．宇治山田商業高等学校

11 番　浅野琳子議員、12 番　島津萌乃香議員、13 番　吉川貴恵議員

６．伊勢学園高等学校

15 番　関麻奈美議員、16 番　中村めぐみ議員　（14 番　前納果凜議員は欠席）

７．英心高等学校

17 番　一志海斗議員、18 番　加藤来輝議員、19 番　下田彩莉議員

（伊勢市議会議員）

中山裕司議長、品川幸久副議長

宿典泰広聴検討分科会会長、山本正一広聴検討分科会委員、西山則夫広聴検討分科会委員、吉岡勝裕広聴検討分科会委員、野崎隆太広聴検討分科会委員、井村貴志広聴検討分科会委員

上村和生産業建設委員会委員長、野口佳子産業建設委員会副委員長

浜口和久教育民生委員会委員長、辻孝記教育民生委員会副委員長

北村勝総務政策委員会委員長、吉井詩子総務政策委員会副委員長

世古口新吾議員、小山敏議員、藤原清史議員、福井輝夫議員、岡田善行議員、世古明議員、鈴木豊司議員、楠木宏彦議員、中村功議員、久保真議員、宮﨑誠議員

（伊勢市長）

鈴木健一市長

開会　午後１時00分

■記録

◎皇學館大学若山裕紀議長

　みなさん、こんにちは。このたびは「伊勢市高校生議会」に御参加いただき、誠にありがとうございます。

　私たちは、皇學館大学の「みんなの声を聞くには？プロジェクト」のメンバーで、日頃から伊勢市議会と連携しており、本日の「伊勢市高校生議会」の議長役を務めさせていただくことになりました。

　まずは、私たちの自己紹介をさせていただきます。

　始めに、議長役を務めます皇學館大学３年生の若山裕紀です。次に議長役を務めます皇學館大学３年生の濱口祥夏です。記録撮影を担当します皇學館大学２年生の正後陽菜です。

　それでは、ただいまより、「伊勢市高校生議会」を開催します。

　始めに、主催者を代表しまして伊勢市議会の中山裕司議長から挨拶をさせていただきます。

○中山裕司伊勢市議会議長

　皆さん、こんにちは。御紹介をいただきました、伊勢市議会で議長を務めております中山でございます。

　本日は、「伊勢市高校生議会」に御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

「伊勢市高校生議会」は、次世代を担う高校生の皆さんが、日頃感じている市政に対する疑問点や、これからの伊勢市に望むことを、議員となって御質問いただくことで、市政や議会への関心をより一層高めていただくことを目的に開催するものであります。

　事前にいただきました質問内容を拝見しておりましても、今後、我々議会においても十分反映させることができる、大変すばらしい内容がたくさんございました。

　ここで一休みをいたしまして、皆さん、一呼吸してください。大きく呼吸をしてください。と申しますのは、慣れない場所で、緊張もたくさんあろうかと思いますけれども、肩の荷を抜いていただきまして、皆さんの元気な声を聞かさせていただくことを楽しみにいたしております。

　最後になりましたけれども、開会にあたりまして、御尽力をいただきました各高等学校の関係者の皆様方、引率の先生方に感謝とお礼を申し上げるとともに、「伊勢市高校生議会」が無事に成功裏に終わることを祈念いたしまして、主催者を代表しての挨拶とさせていただきます。

　本日は、どうかよろしくお願いいたします。

◎皇學館大学若山裕紀議長

　中山議長、ありがとうございました。

　続きまして、来賓としてお招きしております、鈴木健一市長から御挨拶をいただきます。

○鈴木健一伊勢市長
皆さん、改めましてこんにちは。御紹介をいただきました、伊勢市長の鈴木でございます。
本日は、「伊勢市高校生議会」に御参加をいただきまして、私からも厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。
御存知のとおりですね、2015 年に公職選挙法という法律が改正をされまして、選挙で投票できる年齢が 20 歳以上から 18 歳以上になりました。これですね、本当、日本の政治の中でも大きな出来事でありまして、高校生の皆さんにとりましても、政治や選挙が身近に感じられるようになったのではないかというふうに感じております。
こういった状況の中ですね、先ほど議長さんからもお話がありましたように、次世代を担う皆さん方が、少しでも政治に関わる、そういったきっかけが増えることは、非常に我々にとってもありがたいことやなというふうに思っております。
恐らくですね、この伊勢市政の中でも、高校生の皆さんが市政のことを考えて、調べて、そして積極的に御発言をいただく機会っていうのは、たぶん、初めてのことなんだろうなというふうに思っております。それ以上にですね、我々もしっかりと耳を大きくして、皆さん方の声を聞かせていただいて、少しでも市政に反映できるように頑張ってまいりたいと思います。
結びになりますけれども、本日の開催にあたって、御尽力をいただいた各高校の先生方、また皇學館大学の先生方にも感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。
本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

◎皇學館大学若山裕紀議長
鈴木市長、ありがとうございました。
続きまして、高校生議員の紹介に移ります。
お手元の「伊勢市高校生議会プログラム」の席次表の議席番号順で、学校ごとに名前を呼びますので、一人ずつ返事をして、起立していただき、最後に全員で礼をして、着席してください。
始めに宇治山田高等学校、１番　田中莉里加議員、２番　山本千夏議員、３番　田端あゆみ議員。続きまして、明野高等学校、４番　岩佐凜議員、５番　海野涼二議員。続きまして、伊勢工業高等学校、６番　川北沙也加議員は、本日欠席のため、代理、小川歩佳議員、７番　田端稜平議員。続きまして、皇學館高等学校、８番　松川歩夢議員、９番　濱岡愛弥議員、10 番　山村奈也議員。続きまして、宇治山田商業高等学校、11 番　浅野琳子議員、12 番　島津萌乃香議員、13 番　吉川貴恵議員。続きまして、伊勢学園高等学校、15 番　関麻奈美議員、16 番　中村めぐみ議員、14 番　前納果凜議員は本日欠席です。続きまして、英心高等学校、17 番　一志海斗議員、18 番　加藤来輝議員、19 番　下田彩莉議員。
以上で、高校生議員の紹介を終わります。
続きまして、伊勢市議会の参加議員の紹介に移ります。
事務局より紹介をお願いします。

○中村昌弘伊勢市議会事務局長

議会事務局の中村でございます。それでは、事務局より伊勢市議会の参加議員の紹介をさせていただきます。先ほど、御挨拶をいただきました中山議長と鈴木市長以外の参加議員につきまして、お手元の「伊勢市高校生議会プログラム」の席次表に基づき、順番に名前をお呼びしますので、その場で御起立をお願いいたします。

始めに、品川幸久副議長。続きまして、宿典泰広聴検討分科会会長。続きまして、上村和生産業建設委員会委員長。続きまして、野口佳子産業建設委員会副委員長。続きまして、浜口和久教育民生委員会委員長。続きまして、辻孝記教育民生委員会副委員長。続きまして、北村勝総務政策委員会委員長。続きまして、吉井詩子総務政策委員会副委員長。続きまして、山本正一広聴検討分科会委員。続きまして、西山則夫広聴検討分科会委員。続きまして、吉岡勝裕広聴検討分科会委員。続きまして、野崎隆太広聴検討分科会委員。続きまして、井村貴志広聴検討分科会委員。続きまして、世古口新吾議員。続きまして、小山敏議員。続きまして、藤原清史議員。続きまして、福井輝夫議員。続きまして、岡田善行議員。続きまして、世古明議員。続きまして、鈴木豊司議員。続きまして、楠木宏彦議員。続きまして、中村功議員。続きまして、久保真議員。続きまして、宮﨑誠議員。

以上で、伊勢市議会の参加議員の紹介を終わります。

◎皇學館大学若山裕紀議長

ただいまより、14 時まで暫時休憩とします。

再開３分前にブザーが鳴りますので、ブザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

休憩　午後１時45分
再開　午後２時00分

◎皇學館大学若山裕紀議長

休憩前に引き続き、「伊勢市高校生議会」を開きます。

これより、市政に対する質問を行います。

発言通告がありますので、順次、許可することにいたします。

始めに、伊勢学園高等学校、15 番　関麻奈美議員、16 番　中村めぐみ議員。

【伊勢学園高等学校の質問】
（外国人観光客の受け入れとその取り組みについて）

○伊勢学園高等学校
【15 番　関麻奈美議員、16 番　中村めぐみ議員】

私たちは、外国人観光客の受け入れについて、質問をさせていただきます。私たちの住む伊勢志摩には、伊勢神宮をはじめ、たくさんの観光地があります。それらを訪れる人々の中で、2016 年に行われた伊勢志摩サミットの効果もあり、外国人観光客が増えてきているように見えます。それによって、伊勢のまちが賑やかになるのは、とても喜ばしいこ

とです。
ですが、そればかりではなく、私たちが考えていかなければならない課題もたくさんあります。その課題の一つとして、他言語への対応が挙げられます。街中で、外国人観光客が外国語で地元の人に道などを尋ねているのをよく見かけます。そのとき、スムーズに答えることができたらいいのですが、いざとなるとそれができない人が多くいるのが現状だと思われます。
中には話しかけられても聞こえないふりをして、通り過ぎてしまう人も見かけたことがあります。外国人観光客の中には、英語圏の国以外から来ている人もたくさんいるため、そのような場合には、ますます対応が難しくなります。とはいえ、私たち市民が今から英語以外の外国語を身につけるということは、とても大変なことで時間もかかります。私たちが身近にできることとしては、困っている外国人観光客を見かけたら、英語でも日本語でも、何か一言声をかけるなどの意識を持つことが大切であるように感じます。また、最近、案内板など多言語表記で対応しているところが増えてきているように感じます。しかし、それも、英語や中国語、韓国語など限られた言語でしか表記されていないものがほとんどです。
このような対応だけでは、他の国から来た観光客は戸惑ってしまうでしょう。観光客を増やすためには、どんな人でも安心して訪れることができるようなまちづくりが必要です。そのためにはまず、外国人観光客の受け入れについて、様々な国の人が過ごしやすいような取り組みを進めていかなければならないと考えます。
ここでは、主に多言語対応について、述べてきましたが、それ以外にもマナーの違いや食文化の違いなど、様々なことにこれから対応していく必要があるのではないでしょうか。
ここで質問です。先ほど述べました外国人観光客の受け入れについて、現在伊勢市で行っている取り組みは何かありますか。
また、今後の取り組みとして、検討されているものはありますか。

◎皇學館大学若山裕紀議長
産業建設委員会副委員長。

●野口佳子産業建設委員会副委員長
伊勢学園高等学校の皆さん、本日は高校生議会への御参加、ありがとうございます。伊勢市では、外国人観光客数の推移を外宮、内宮の参拝者数や市内に５カ所ある観光案内所を訪れる観光客数を参考に計測しています。平成 20 年に外宮、内宮を訪れた外国人は約 53,300 人でした。伊勢志摩サミットが開催された平成 28 年以降は 10 万人を超え、観光案内所を利用された外国人も、平成 20 年には約 2,400 人でしたが、平成 28 年以降は約 8,500 人を超える状況となりました。また、伊勢市駅、宇治山田駅、外宮前、宇治浦田駐車場、二見浦の５カ所の観光案内所では、英語や中国語に対応可能なスタッフが配置されています。
パンフレット類については、誘客や市内周遊につなげる総合パンフレットとして、英語・フランス語・ドイツ語・簡体字（かんたいじ）中国語・繁体字（はんたいじ）中国語・韓国語の６言語のパンフレットを作っています。また、首都圏や関西圏で配布してい

る英語版のパンフレットもあります。また、市内周遊に利用していただけるマップとして、英語・フランス語・ドイツ語・簡体字（かんたいじ）中国語・繁体字（はんたいじ）中国語・韓国語・スペイン語・イタリア語の８言語で対応しております。また、英語だけになりますが、おはらい町版、外宮参道版、二見版のウォーキングマップも作成し、観光案内所などで配布しています。

ホームページについては、伊勢市観光協会と協力し、情報発信していますが、こちらも英語・フランス語・ドイツ語・簡体字（かんたいじ）中国語・繁体字（はんたいじ）中国語・韓国語・スペイン語の７言語のページがあります。

また、伊勢、鳥羽、志摩、南伊勢町などでは、構成する伊勢志摩観光コンベンション機構や三重県とも協力しながら、広い範囲での外国人観光客誘致のため、パンフレット作成やホームページ運営など、様々な情報発信を行っております。

伊勢市の今後の取り組みといたしましては、外国人観光客がスマートフォンを利用して周遊されている方を多く見かけるため、外国語版のホームページの充実を図り、改良を行っていく予定です。また、案内看板、サインについて、今年度は伊勢志摩国立公園内である朝熊山に日本語と英語を併記した看板の整備を行い、神宮はもとより、朝熊山など周辺地域への訪問、周遊の促進を図っていきます。今後も案内看板の充実を図っていく必要がありますが、多言語で大きな看板を設置することは、景観を損う一因にもなることから、他の観光地でも見直されています。伊勢市でも景観に配慮しながら、順次、日本語と英語を併記した看板の設置を進めていきます。

以上をもちまして、伊勢学園高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎皇學館大学若山裕紀議長

伊勢学園高等学校。

○伊勢学園高等学校

【15 番　関麻奈美議員、16 番　中村めぐみ議員】

本日は、大変お忙しい中、答弁をありがとうございました。私たち高校生もＳＮＳ等を通じて、可能な限り伊勢市をＰＲし、観光客を集客できる方法を考えていこうと思います。改めてですが、本日はありがとうございました。

◎皇學館大学若山裕紀議長

次に、宇治山田高等学校、１番　田中莉里加議員、２番　山本千夏議員、３番　田端あゆみ議員。

【宇治山田高等学校の質問】
（どうすれば伊勢市で電子マネーを普及させることができるのか？）

○宇治山田高等学校

【１番　田中莉里加議員、２番　山本千夏議員、３番　田端 あゆみ議員】

宇治山田高等学校です。本日はこのような貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。宇治山田高等学校では、探究活動という学習をしています。私たちは「電子マネーの普及」というテーマをもとに班を組み、活動しています。

本日、私たちが質問させていただきたいことは、「どうすれば伊勢市で電子マネーを普及させることができるのか」ということです。私たちは、都会では、交通機関、商店など様々なところで電子マネーが普及されており、キャッシュレス化が進んでいることを知りました。私自身、都会へ行った際に実際に使用しました。電車に乗ることや、商品を購入することが、電子マネー一つで済ませることができ、とても便利だと感じました。

伊勢市は、年間 800 万人を超える多くの観光客を全国各地から迎えています。伊勢市産業観光部観光振興課様の資料に基づきますと、平成 30 年度の神宮参拝者数は外宮内宮計 850 万人でした。このように、伊勢は今、全国、また世界から注目の観光地となっています。そこで、観光客が増えてきている伊勢市でも、電子マネーを普及させることで、観光客の利便性が高まり、さらに観光地として発展するのではないか。またそれが、市民の生活を豊かにし、伊勢市の発展にもつながるのではないかと考えました。

私たちは、伊勢市の電子マネーの普及についての現状を知ろうと思い、市内の商店街等で協力してもらい、聞き込み調査を行いました。実際に、現在電子マネーを取り入れているお店は多くありませんでした。その理由として、「現金でないので、不正が起こるのではないかという不安がある」、「手数料がかかる」、「販売している商品の金額が数十円のため、電子マネーを使用する必要がない」、「本社の指示がないと導入できない」など、不正利用や経済負担、仕組みの理解に対する不安の声がありました。また、高齢者が経営する商店では、「使い方が全くわからない」、「後継者がいなくて、新しいことを導入しようと思わない」など、電子マネーの導入に対して、否定的な意見が多数を占めていました。

この調査から、電子マネーの普及について、課題が二つあると考えました。

一つ目は、仕組みの理解不足です。電子マネーについての理解やその制度についての理解が不十分であるため、電子マネーの導入に至っていない商店は多くありました。

二つ目は、事業継続の不安です。跡継ぎがいないなどの理由から、導入に踏み込めていないという現状によって、電子マネーを導入していないという意見も大きな課題だと思います。

先に述べましたように、私たちは、市内において、電子マネーによるキャッシュレス化を進めることが、市民生活をより豊かにし、伊勢市の発展にもつながるのではないかと考えています。市内の商店街の事業主の皆さん、特に高齢者の方が、電子マネーを積極的に活用できるようにするために、伊勢市として、どのような支援を行おうとされていますか。

また、私たち高校生にも、何か役に立てることはありませんか。以上の２点について、御質問させていただきます。

◎皇學館大学若山裕紀議長

産業建設委員会委員長。

●上村和生産業建設委員会委員長

宇治山田高等学校の皆さん、御参加ありがとうございます。それでは、御質問にお答えをします。伊勢市におけるキャッシュレス化の現状ですが、具体的な数値は把握していません。特に、小売業者や飲食店などにおいては、あまり多く普及していないと認識しています。キャッシュレス化が普及しない要因としては、皆さんが市内の商店等で調査をしていただいたとおり、「手数料がかかり、収入が減る」、「後継者もなく、新しいことに取り組まなくても」、また、「商品が先に出てしまい、お金が入ってくるのは後日というのは困る」といった意見を把握しています。

また、決済手段の多様化・高度化は、消費者の利便性向上に寄与するものの、一方では、多重債務に陥る危険性や、カード情報の漏洩や悪用、また悪質商法の支払手段として利用されるなどの、一定のリスクがあるということも認識しておく必要があります。

伊勢市では、「観光客の利便性向上」、「伊勢の商業環境の近代化を図る」、また「新しい顧客を獲得するきっかけ作り」ということで、キャッシュレス化に向け、平成28年度に「クレジットカード決済機器導入促進事業」として、クレジットカード決済機器の導入に必要となるインターネット回線の利用に係る初期費用及びクレジットカード決済機器に接続するための工事費補助を上限５万円として、実施をしました。実績としては８件であり、多くの普及はできませんでした。

また、平成30年度には「地域電子マネー決済システム導入支援事業」として、商工会議所と連携をし、大手流通のイオンが運営する電子マネー「伊勢志摩ＷＡＯＮ」を用いて決済した場合、ＷＡＯＮポイントに加えて、地域ポイントである「伊勢マイル」を交付しています。伊勢マイルが市内で流通することにより、地域経済やコミュニティの活性化を図ってきました。導入実績としては、128店舗で、現在も取扱店の拡大に取り組んでいます。

最近では、スマートフォンアプリを活用した電子マネーでの支払いができる店舗も少しずつではありますが、増えてきています。市内全体を見れば、まだまだ使える店舗は限られておりますけれども、市民の利便性向上のためにも、今後も取り組むべき課題の一つと認識しています。

もう一つの質問、「高校生にできることはないのか」とのことでありますけれども、市内でも、休業や廃業を止む無く選択される小売業者や飲食店の方々が増えてきております。地元の小さなお店や商店街などでお買い物をしていただければ、それがキャッシュレス化の導入につながりますし、ひいては伊勢市の発展にもつながっていくのではないでしょうか。以上をもちまして、宇治山田高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎皇學館大学若山裕紀議長

宇治山田高等学校。

〇宇治山田高等学校

【１番　田中莉里加議員、２番　山本千夏議員、３番　田端あゆみ議員】

答弁、ありがとうございました。まず、電子マネーは便利ではあると考えますが、様々なトラブルが起こる可能性があることを踏まえた上で、気をつけて使用することが大切だと改めて認識しました。また、伊勢市としても様々な取り組みをしていただいていること、しかしながら、電子マネー普及への課題は、簡単には解決できないものであることがよく

わかりました。
私たちも大型店やインターネットでよく買い物をしていますが、今後は地元のお店で購入できるものは購入していこうと思います。また、地元のお店をより知ることができれば、地元の魅力を発信することもできます。魅力の発信を、身近な学校の友達から始め、大学進学後は、県外にも地元の魅力を広めていきたいと思います。そして、多くの観光客や地元の人々が各地の商店街などに集い、それによって電子マネーの普及が進めば、伊勢市がよりよい街へ発展していくことができると考えました。
このように私たちにできる小さな行動も電子マネーの普及、伊勢市の発展につながるということがわかりましたので、明日から実践していきたいと思います。
最後になりますが、今回高校生議会に参加させていただき、貴重な経験ができました。この経験は、今後の人生に生かしていきたいと思います。本日はありがとうございました。以上で質問を終わります。

【皇學館高等学校の質問】
（中心市街地の活性化計画と環境施策について～若者をよびこむための活性化計画～）

◎皇學館大学若山裕紀議長
次に、皇學館高等学校、８番　松川歩夢議員、９番　濱岡愛弥議員、10 番　山村奈也議員。

○皇學館高等学校
【８番　松川歩夢議員、９番　濱岡愛弥議員、10 番　山村奈也議員】
議長にお許しをいただいたので質問をいたします。質問項目は、「中心市街地の活性化計画と環境施策について～若者をよびこむための活性化計画～」です。
私たち３名は、それぞれ異なる市と町に暮らしながら、伊勢市の皇學館高等学校に通っています。３名が暮らしているそれぞれの地域の共通課題として、高齢化、地域活性化、環境問題について話し合いをしましたが、全ての問題が「若者が暮らし続けたいまちづくりの必要性」という点に集約されると考えました。これから、私たちの現状分析と提案を述べさせていただきますので、「若者をよびこむための中心市街地の活性化計画と環境施策について、どのようにお考えか」という点を質問したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
伊勢市のホームページにアクセスし、「伊勢市中心市街地活性化基本計画」を見ました。それによると、中心商店街の店舗数が減少し、大規模小売店舗も多くが退店しているため、中心市街地に求心力がなくなりつつあるということがわかりました。一方で、伊勢市を訪れる観光客数は増加し、伊勢市駅前にも次々と宿泊施設が建設され、伊勢神宮を訪れる観光客向けの土産物販売店や飲食店が建ち並んでいます。
しかし、私たちは、地元の人や高校生などの学生が集まって楽しめるような施設が少ないのではないかという点に着目しました。「伊勢市中心市街地活性化基本計画」には、市民の意見がまとめられており、伊勢市が特に力を入れて取り組むべき施策は、高齢者支援、防災対策の強化、医療の充実等が挙げられていました。中心市街地の活性化に対する市民

の関心は「中程度」ということですが、私たちは若者が中心市街地で消費行動を行う商店や娯楽施設、イベント企画がなければ、地域の活性化は失われていくと感じました。伊勢市の人口が微減に転じているのは、伊勢市が「観光地」ではあるが、「住みやすいまち」ではないということを表しているように思えます。

１点目の提案ですが、伊勢市の中心には宇治山田駅、伊勢市駅と大きな駅が連続しており、集客が狙える場所となっています。学校から帰宅する高校生などの学生を対象とした施設やイベント企画があれば、もっと地域活性化につながり、地元の人も含め、伊勢市の発展につながると思います。カラオケやゲームなどの娯楽施設が欲しいということだけではなく、全ての世代が、教育・ショッピング・ボランティアなど、様々な目的で集まることができる場所を提供することはできないでしょうか。

２点目の提案ですが、私たちは環境問題にも関心を持っており、私たちが考えたのが、「伊勢市の中心から環境施策を訴える」です。６月に開催されたＧ20 大阪サミットでも方策が議論された「海洋プラスチック汚染問題」に着目しました。

例えば、観光文化会館や駅周辺の商店街の空き店舗に「脱プラスチック」の取り組みを行っているカフェを開いたり、環境問題を学習する親子教室の開催やプラスチックリサイクルに関する研修、社会貢献活動の一環として地域活性化や環境保全などの活動に取り組む企業を誘致し、月ごとにイベントブースを設置してもらうなど、全ての世代が気軽に集える場所を提供することはできないでしょうか。

私たちの伊勢市は、地域活性化が緊急の課題であり、高齢化の進む日本では、全ての世代が協力して、問題に取り組む必要があると思っています。その中で、環境問題と若者を結びつけることは、豊かな自然を誇る伊勢市ならではの施策になるのではないでしょうか。御答弁をお願いいたします。

◎皇學館大学若山裕紀議長

産業建設委員会委員長。

○上村和生産業建設委員会委員長

皇学館高等学校の皆さん、御質問ありがとうございます。ただいまから御質問にお答えいたします。現在、伊勢市では都市マスタープランに掲げる、多様な都市機能を集約させ、歩いて暮らせるコンパクトな集約型都市構造の実現に向け、伊勢市立地適正化計画を策定し、「若い世代にとって魅力的な都市」、「高齢者が安心して暮らせる便利な都市」という都市づくり方針を定めています。

また、「伊勢市中心市街地活性化基本計画」では、今までのように行政が主導するまちづくりではなく、地域住民や民間事業者が中心となり、「暮らしやすく、また訪れたくなる　いせのまち」をビジョンに掲げ、中心市街地の活性化に向けた取り組みが進められています。

伊勢市の中心市街地の現状と課題ですが、市内の商業、特に商店街においては、新たな出店はあるものの、人口減少、交通環境の変化や大型店の郊外出店など、集客力・求心力が弱まっています。また、店主の高齢化や後継者不足により、空店舗の解消が図られていないのが状況であります。特に商店街は、地域のコミュニティとして、役割が期待されており、賑わいのある商

店街づくりは、中心市街地の活性化を図る上で、大変重要な課題となっています。
　まず、１点目に御提案をいただきました「全ての世代が、教育・ショッピング・ボランティアなど、様々な目的で集まることができる場所」につきましては、中心市街地の活性化を図る上で大変有効的な手段であると考えます。しかし、様々なイベントが開催できる場所となりますと、中心市街地には「シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢（伊勢市観光文化会館）」や「伊勢シティプラザ」等、限られているのが現状であります。今後は、市民活力を最大限に活かせるよう、環境を整えていきたいと考えております。現在、市街地再開発事業において、伊勢市駅前地区では、民間事業者が進める事業に対し、補助金等を支援する等で住環境の整備を行い、人口の定住を進めるほか、周辺商店街への人の流れを誘導し、商店街の活性化を図ってまいります。
　なお、市内各地では、教育、環境、ボランティア等に関連した各種イベントが開催されていますので、皆さんもぜひ、イベント等の企画や開催に携っていただければ大変ありがたく思います。
　次に２点目の「伊勢市の中心から環境施策を訴える」につきましては、皆さんからの御提案をいただいたように、６月に開催されましたG20 大阪サミットにおいて、海洋プラスチック汚染問題が大きく取り上げられました。世界的にも注目がされています。
　海洋プラスチック汚染問題の対応として、私たち一人一人が、ペットボトルなどのポイ捨てをしないことやレジ袋をもらわないことなど、ごみの発生を抑制することが大切です。今後はプラスチック製ストローの使用を中止するなど、プラスチックごみの削減に向け、世界中の国々と企業が真剣に考え、連携し、取り組みを進めていくことが重要です。
　伊勢市では、企業、市民、学生などが参加していただき、海岸清掃を実施しているほか、浜辺では海岸漂着物の実態把握を行っています。漂着ごみ・散乱ごみの調査やクリーンアップを通じて海や川の環境保全を行っている、非営利の環境ＮＧＯである「ＪＥＡＮ（ジーン)」にも報告を行っています。
　また、ごみの分別キャラクターである「かもしかのごみバスターズ」を起用し、全ての世代にわかりやすく、環境教育を始め、脱プラスチックを含むごみの減量・資源化に向けた市民意識の定着化・習慣化を図るため、環境リサイクルフェアなどのイベントを開催し、全ての世代が、気軽に集まれる場所を提供していきたいと考えています。今後は他市の事例なども研究してまいりたいと考えております。
　以上をもちまして、皇学館高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。

◎皇學館大学若山裕紀議長
　皇學館高等学校。

○皇學館高等学校
【８番　松川歩夢議員、９番　濱岡愛弥議員、10 番　山村奈也議員】
　「かもしかのごみバスターズ」などのキャラクターが活動してくださっていることを知らず、不勉強でした。ごみの総量を減らすことが根本的な課題であると考えますので、伊勢市の強いリーダーシップを期待します。答弁ありがとうございました。

【英心高等学校の質問】
（少子化対策について）

次に、英心高等学校、17 番　一志海斗議員、18 番　加藤来輝議員、19 番　下田彩莉議員。

〇英心高等学校
【17 番　一志海斗議員、18 番　加藤来輝議員、19 番　下田彩莉　議員】
英心高等学校の一志海斗、加藤来輝、下田彩莉です。議長の許可をいただきましたので質問をさせていただきます。このような場所で質問させていただくのは初めてで、大変緊張しておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。
今回、私たちは「少子化問題」について質問させていただきます。私たち自身も、将来、結婚し家族を持ち、そして、子育てをするという漠然とした未来を想像しています。ともに人生を歩みたいと思う人と結婚し、楽しい家庭を築き、子育てを楽しむことは、豊かな人生の基盤となることでしょう。「少子化問題」は、私たちの未来にかかわる大きな問題であると捉え、この問題を質問しようと考えました。
まず、始めに、私たちが学ぶ伊勢市の人口分布を調べてみました。皆様のお手元の資料にございます、「伊勢市年齢別人口集計表」をごらんください。明らかに若い世代ほど減少していることがよくわかります。多少、波はあるものの、私たちの 18 歳の世代ですら、多い世代の半分程度の人口しかいないことがわかります。こちらのグラフから、改めて少子化の急激な進行を認識いたしました。特に、我々の世代より、80 代のお年寄りの方々の人数が多いことにはとても驚きました。
まず、１点目の質問は、こちらのグラフから見ると、６歳から加速的に少子化が進んでいるように感じますが、その要因は何でしょうか。また、今後、児童数の減少など小学校への影響はどのようにお考えでしょうか。
少子化は結婚しない人が増える未婚化及び結婚年齢が上昇する晩婚化等が大きな原因と言われています。また、子育てしにくい社会環境や、仕事との両立が難しい職場環境や、余裕を持って子育てができないといった経済環境など、その一つ一つは、知恵を出し、汗をかくことで解決可能な問題のような気がしてなりません。
二つ目の質問は、現在、市が独自に取り組んでいただいている少子化対策、そして、その効果について教えてください。世の中は、人それぞれ立場が違えば、同じものでも違って見えるものです。私たちは、まだ、大人ではありません。正しく物事が理解できているかどうかはわかりませんが、逆に、我々だからこそ見えてくるものもあるかと思います。
そこで、私たちからの提案です。意見を聞かせてください。一つ目は、安全で安心して子供たちが遊べる大きな公園をつくってください。例えば市民病院の解体が進んでいますが、その跡地に子供たちに限定したゆったりと遊べる空間を作ってください。二つ目は、高校進学や、大学進学時に大きなお金が必要だと言われています。毎月いただく、子ども手当のようなものでなく、例えば 15 年積立型の子育て支援策で、必要になる時期まで使えず、必要な時にまとまって受け取れるタイプの支援策を検討してください。
いろいろ感じたままに自由に質問をさせていただきました。言葉足らずのところも随

分あったと思いますが、お許しください。このまま同じことをしていても、未来はよくなるとは思いません。何か伊勢市ならではの突破口を見つけて、突き進んでいってほしいと我々は願っています。
　以上で質問を終わります。御答弁のほうをよろしくお願いします。

◎皇學館大学若山裕紀議長
　教育民生委員会委員長。

〇浜口和久教育民生委員会委員長
　それでは、英心高等学校の一志海斗さん、加藤来輝さん、下田彩莉さんの御質問にお答えをいたします。まず、１点目の伊勢市の少子化の現状でございますが、伊勢市の人口は、1985 年（昭和 60 年）をピークに、その後は減少に転じるとともに、出生数もほぼ一貫して減り続けております。
　伊勢市の合計特殊出生率、これは 15 歳～49 歳までの一人の女性が一生の間に産むであろうこどもの数は、平成 17 年に 1.22 人と最も低く、以降はおおむね上昇傾向にあります。ちなみに、平成 23 年は、1.54 人と高くなっております。つまり、一人の女性が子供を産む数は増えてはいるものの、出産適齢期の女性の総数が減少しているのが現状であります。合わせまして、様々な要因により、未婚化や晩婚化が進む中、出生の機会が減少していることから、これらが６歳以下の子供の数にも表れている、そういうふうに考えております。
　次に、児童数の減少など、小学校への影響はどのように考えているかということですが、市内の小・中学校の児童・生徒数は、小学校では昭和 56 年、中学校では昭和 61 年をピークとして年々減少しており、多くの学校で小規模化が進んでおります。
　小・中学校のさらなる小規模化は、子供たちの教育環境への様々な課題を生じさせることが懸念されております。このような課題を解消し、子供たちが確かな学力を身につけ、豊かな人間性と健やかな身体の育成といった、いわゆる「生きる力」を育むことができる教育環境の構築と教育の質の充実を目的として、「伊勢市立小中学校適正規模・適正配置計画」を策定し、取り組んでいるところでございます。
　２点目の伊勢市が取り組んでいる少子化対策とその効果についてでございますが、現在、少子化対策として、「出会い・結婚支援事業」、「妊娠期から子育て期への切れ目のない支援」、「不妊不育治療費の助成」、「就学前のこどもの教育・保育の充実」、「放課後児童クラブの充実」、「こども医療費窓口無償化の実施（未就学児）」など、出会い・結婚・出産・育児・教育と切れ目のない子育て支援を行っています。その効果につきましては、それぞれの支援事業を利用される方からは、喜んでいただいておると考えておりますが、今後はこれらの事業の更なる充実や必要とされているところに、手を差し伸べられるよう努力していくことだと考えます。
　次に御提案をいただきました１点目の、安全で安心して子供が遊べる大きな公園をつくってほしいとのことですが、伊勢市では、住民一人当たりの公園の敷地面積の基準などを定め、「環境保全」、「レクリエーション」、「防災」、「景観形成」などの多様かつ重要な機能を有している公園を計画的に整備し、維持管理をしております。
　公園は、その機能に応じて種類を分類しており、安全で安心して子供が遊べる大きな公

園となりますと、都市基幹公園の総合公園や運動公園がこれに当たり、五十鈴公園、それから倉田山公園、大仏山公園などが整備されているほか、現在、宮川河川敷公園の整備が進められているところです。市立伊勢総合病院の跡地につきましては、来院者等の交通手段確保の観点から、駐車場としての土地利用が決定されておりまして、今後整備される予定となっております。

次に、２点目の高校や大学への進学時に大きなお金が要るので、毎月給付されている子ども手当のようなものではなく、必要な時期にまとめて受け取れるタイプの支援策を検討していただきたいとのことですが、今年の 10 月から始まります「幼児教育・保育の無償化」に加え、「奨学金制度の改正」も行われまして、令和２年度からは、大学・短期大学・高等専門学校・専門学校生の授業料等減免制度が創設されることや返還不要の給付型奨学金制度も実施されます。このように一つ一つできるところから、国の動向も見据えながら、環境整備を進めてまいりたいと思っております。

今回、英心高等学校の皆さんから、大変貴重な御意見や御提案をいただきました。今後とも皆さんのような新しい考えや新鮮な御意見を、行政や身近な議員に届けていただければ幸甚でございます。どうもありがとうございました。

以上、英心高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。

◎皇學館大学若山裕紀議長

英心高等学校。

〇英心高等学校

【17 番　一志海斗議員、18 番　加藤来輝議員、19 番　下田彩莉議員】

御丁寧に一つ一つ御答弁くださり、ありがとうございました。このような機会を与えてくださり、感謝しています。本日はありがとうございました。

◎皇學館大学若山裕紀議長

ただいまより、15 時まで暫時休憩とします。

再開３分前にブザーが鳴りますので、ブザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

休憩　午後２時45分
再開　午後３時00分

◎皇學館大学濱口祥夏議長

休憩前に引き続き、「伊勢市高校生議会」を開きます。

ただいまから、議長役は皇學館大学３年生の濱口祥夏が務めさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

これより市政に対する質問を行います。

発言通告がありますので、順次、許可することにいたします。

宇治山田商業高等学校、11 番　浅野琳子議員、12 番　島津萌乃香議員、13 番　吉川貴恵議員。

【宇治山田商業高等学校の質問】
（痴漢被害の対策について）

〇宇治山田商業高等学校
【11 番　浅野琳子議員、12 番　島津萌乃香議員、13 番　吉川貴恵議員】
宇治山田商業高等学校です。よろしくお願いします。私たちは、性犯罪被害の痴漢について考えました。私たち高校生の多くは、通学のため電車を利用しています。そのため、私たちに身近な犯罪は痴漢被害ではないかと考えたからです。
平成 28 年度、埼玉県が行ったインターネットによるアンケートによると、67.1％の女性が痴漢被害の経験があり、その被害者のうち、59.8％の人々がその場では何もできずに我慢していることがわかりました。そのような中、衣替えで肌の露出が増える時期になると、毎年、電車や駅構内で女性を狙った痴漢や盗撮の被害が増加傾向にあります。このような現状では、私たち高校生は、安心して電車を利用して通学することができません。
痴漢に遭わないための対策の一つとして、若者の間で少しずつ広まりを見せている「痴漢抑止バッジ」を身につけることが挙げられます。このバッジは、平成 27 年に痴漢に苦しんでいた都内の女子高生が、「痴漢は犯罪」、「泣き寝入りしない」と書かれたカードをカバンにつけたことにより、痴漢被害が減少したことがきっかけで作られました。
平成 28 年からは、毎年デザイナー志望の学生たちから広くデザインを募り、商品化され販売されており、今年も３月から新たなデザインのバッジが販売されています。ほかにも、いつも手に持っているスマホを使って周囲に助けを求めることができる防犯ブザーや「デジポリス」という痴漢撃退機能がある防犯アプリも開発されています。これらの対策により、「安心して電車に乗れるようになった」、「痴漢被害がピタッとやんだ」など、支持する多数の声が寄せられています。しかし、このような対策を行っている人は、私たちの周りにはあまり見受けられませんし、三重県では、あまり知られていないように思います。
そこで、私たちは、これらの対策をたくさんの人に知ってもらいたいと考えており、「痴漢抑止バッジ」や「デジポリス」などの痴漢対策情報のポスターやチラシを作成し、広く配布したらどうかと考えます。また、これらのポスターやチラシのデザインを公募することも啓発につながるのではないかと思います。私たち、生徒会も学校で講演会を通して、これらの対策について伝えたり、「痴漢抑止バッジ」のデザインの募集を呼びかけたりしたいと思います。
私たちはこのように考えていますが、伊勢市の見解はどのようなものですか。御回答をよろしくお願いいたします。

◎皇學館大学濱口祥夏議長
総務政策委員会副委員長。

●吉井詩子総務政策委員会副委員長
宇治山田商業高等学校の浅野琳子議員、島津萌乃香議員、吉川貴恵議員、御質問、まことにありがとうございます。御質問いただきました「痴漢被害」の対策について御回答

いたします。

三重県警察の情報によりますと、平成 30 年中における、県内の電車内における痴漢や盗撮行為につきましては、「相談受理件数 40 件」、「検挙件数７件」となっています。犯罪防止活動としては、鉄道警察隊による県内主要駅における広報啓発活動や列車内における警戒パトロールを行っていると伺いました。また、鉄道以外での伊勢管内における「痴漢被害」におきましては、こちらも平成 30 年中でありますが、「痴漢被害２件」、「盗撮被害５件」となっています。特に、スーパーや大型店舗のトイレ等において被害等が発生し、犯罪の防止を図るため、警察・教育委員会・自治会・防犯推進協議会・保護司会等の機関とも連携し、取り締まりと防犯活動に取り組んでいただいているところであります。

痴漢というと電車内で被害に遭うというイメージがありますが、電車内に限らず、路上や駅構内、店内、公園内など、開かれた公共の場で痴漢被害が発生することもあります。

電車の場合、痴漢をしていることが他の乗客から見えにくい車両の乗降口付近や連結部分、端の席や窓側の席に座っていると痴漢に遭いやすいということも言われております。また、路上の場合では、人通りが少ないところやライトがなく薄暗い場所が危険です。そして「強制わいせつ事件」が発生しやすい時間帯は、警察の統計資料によりますと、夜の 10 時から深夜の２時ということですので、深夜の外出についても注意を促すことも必要です。

現在、伊勢市におきましては、夜間の安全確保をさらに進めるため、防犯灯のＬＥＤ化を進めるとともに、抑止力といたしまして、防犯カメラについても検討しているところでありますが、防犯の観点から市民の方に防犯意識をさらに高めていただくことが大切で、市民の方々みずからが有用な防犯手段をお持ちいただく取り組みも重要であると考えております。

今回の御質問をいただきまして、痴漢行為については都市部の通勤・通学時の満員電車においてのみ発生するものではなく、伊勢市においても痴漢被害に対して危機感を持っている生徒さんが見えることを再認識しました。

今後の取り組みといたしましては、伊勢警察署と連携し、駅周辺における痴漢被害防止チラシの配布や学校から依頼をいただければ、「防犯アプリ　デジポリス」の紹介も含めた痴漢被害防止の講習会をさせていただきたいと考えております。なお、御提案いただきました「痴漢防止バッジ」などの啓発グッズについてはデザインの提案をいただくなどし、作成について検討したいと考えています。

ここでお手元の資料をごらんください。こちらが、この資料に載っているものの現物でございます。こちらは、伊勢市が以前、伊勢市防犯推進協議会と連携し、伊勢高等学校の漫画部の皆さんの協力を得て、振り込め詐欺を防ぐためにエコバックを作成し、市民の方に配布させていただき、啓発活動を行った時のものです。今回も皆様に御提案いただきましたことに感謝を申し上げます。

市といたしましては、防犯活動に取り組むとともに、痴漢行為という性犯罪は被害者に大きな苦しみをもたらす重大な人権侵害であるということを、しっかり受け止めていただくため、啓発の強化をしていきたいと思います。

以上で宇治山田商業高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎皇學館大学濱口祥夏議長
　宇治山田商業高等学校。

○宇治山田商業高等学校
【11 番　浅野琳子議員、12 番　島津萌乃香議員、13 番　吉川貴恵議員】
　答弁、ありがとうございました。貴重な意見を聞くことができて、とても勉強になりました。今回の経験を生かし、私たちがより一層、防犯に対する知識を身につけ、積極的に周りに呼びかけていきたいと思います。

【明野高等学校の質問】
（ＧＡＰ（農業生産工程管理）の知名度について）

◎皇學館大学濱口祥夏議長
　次に、明野高等学校、４番　岩佐凜議員、５番　海野涼二議員。

○明野高等学校
【４番　岩佐凜議員、５番　海野涼二議員】
　明野高等学校です。よろしくお願いします。私たちがお伺いしたいことは、ＧＡＰの知名度についてです。ＧＡＰとは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのことで、私たち明野高等学校では、豚、米、茶の三つの分野で東海地区の初のＧＡＰを取得し、様々な活動につなげています。
　この場では、豚を例に取り上げます。この明野豚を利用して、肉みそを作り、東京のアンテナショップや地域のイベントなどで販売をしたりしています。また、ＧＡＰの取得が必須である東京 2020 大会への食材提供を目指して活動もしています。ＧＡＰの活動を通じて、東京やその他の地域の人に「この豚はどこの？」、「明野ってどこ？」と疑問を抱いてもらい、いずれは、「明野の豚＝伊勢の小俣」というふうにつながれば、地域の食材の購入や観光客が増えて、まちの活性化につながると思います。
　三重県では、「みえＧＡＰチャレンジ宣言」が発表され、大々的にＧＡＰの取得を推進していますが、ＧＡＰという名前は、まだまだ知られていないように感じます。今のままだと、ＧＡＰを取得した食材と宣伝しても、「ＧＡＰって何？」、「ＧＡＰを取得したら、何がすごいの？」となり、最終目的である地域の活性化にもつながりません。
　そこで質問ですが、伊勢市ではＧＡＰの知名度を上げる活動は行われていますか。また、私たち高校生にできることはありますか。私たちも宣伝活動について、特にこれからの社会を担う若い世代向けに考えてみました。動画製作やＳＮＳを利用した宣伝はいかがでしょうか。１分以下の短い動画や、簡単なクイズ、漫画等、空いた時間にすぐに見られるものなら、若い世代の人にも見てもらえるのではないかと思います。農業に興味のない人でもＧＡＰについて、少し関心を持っていただけるのではないでしょうか。御検討のほど、よろしくお願いいたします。

◎皇學館大学濱口祥夏議長

産業建設委員会副委員長。

●野口佳子産業建設委員会副委員長
明野高等学校の皆さん、御質問ありがとうございます。ＧＡＰとは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのことであると認識しています。これを我が国の多くの農業者や産地が取り入れることにより、結果として持続可能性の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化に資するとともに、信頼の確保が期待され、認証の取得により、販売先の拡大にもつながることも期待されています。
また、三重県においては、平成 29 年７月に「三重県における農産物のＧＡＰ推進方針」を策定し、ＧＡＰ取得にチャレンジし、伊勢志摩サミットで注視された食材を東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の食材として提供を行うことで、世界に通用する食へと高めていこうとする方針が定められています。しかし、市内において、平成 30 年度末でＧＡＰ認証取得をされた事業者は、明野高等学校以外に２事業者、これは、ネギの生産者とお茶の生産者でございます。２事業者しかなく、生産者側、消費者側とも認知度が低い状況であります。
現在の伊勢市の取り組みといたしましては、農業者や農業関係団体に対して、ＧＡＰの推進活動やＧＡＰの知名度を向上させるような取り組み等を実施できていないのが現状です。
明野高等学校につきましては、米を対象に平成 30 年９月 20 日にグローバルＧＡＰを、また、茶、畜産につきましてはＪＧＡＰ認証を受けております。今後とも、積極的に継続して取り組んでいただき、伊勢の食材を世界に通用する食へと高めていくことに寄与していただくことを大いに期待するところであります。ＧＡＰの周知方法につきまして、動画やクイズ、漫画等を作成し、ＳＮＳを利用して情報発信を行うといった若い世代の方に届きやすいと思われるＰＲ方法の御提案をいただき、まことにありがとうございます。
今回、御提案をいただいた動画製作やＳＮＳを利用したＰＲなど、若い皆さんの知恵をお借りして、どのような啓発活動ができるか、検討していきたいと思います。
皆さんから積極的に御提案をいただき、市のホームページや広報いせへの掲載など、ＧＡＰの重要性や必要性についてＰＲを行うことで、ＧＡＰへの取り組みを啓発し、認証取得事業者の知名度向上に向け、推進に取り組んでいきたいと考えております。
以上をもちまして、明野高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎皇學館大学濱口祥夏議長
明野高等学校。

○明野高等学校
【４番　岩佐凜議員、５番　海野涼二議員】
御答弁ありがとうございました。今回、このような場で質問をさせていただき、ありがとうございました。市のホームページや広報いせへの掲載などから、知名度向上に向け、

取り組んでいただきありがとうございます。明野高校としても校内販売やバザー等でＧＡＰを広めていきたいと思います。改めて本日はありがとうございました。

【伊勢工業高等学校の質問】
（こどもたちのための施設及び高校生と連携した取り組みについて）

◎皇學館大学濱口祥夏議長
　次に、伊勢工業高等学校、６番　小川歩佳議員、７番　田端稜平議員。

〇伊勢工業高等学校
【６番　小川歩佳議員、７番　田端稜平議員】
　こんにちは。三重県立伊勢工業高等学校建築科３年、小川歩佳です。１年、田端稜平です。私たちは、建築研究部のメンバーです。この研究部は、４年前から高校と地域社会との連携による取り組みを行っています。今年も二つの取り組みが進んでいますので、まず、本日は、この二つの取り組みを報告し、その後に、子供たちのための施設や高校生と連携した取り組みについての質問をさせていただこうと考えています。よろしくお願いします。
　それでは、まず一つ目の取り組みです。〔写真①〕本校と地域社会との連携による取り組みで、松阪市にある「みえこどもの城」におけるプロジェクトです。〔写真②〕この施設の椅子やテーブルが老朽化したため、私たち高校生が設計し、業者がつくるというものです。今年で４年目に入り、５種類の椅子とテーブルが新しくなりました。設計を手がける上で、一番重視したことは、安全面です。〔写真③〕子供たちが絶対にけがをしないということが重要で、何度も設計変更をしました。この取り組みを通じて、設計には安全面の配慮がとても重要であることがわかりました。
　次に二つ目の取り組みです。〔写真④〕これは、菰野町にある「三重県民の森」の自然学習展示館のリノベーションです。40 年前に建設された施設で、老朽化していることから改修が決まりました。〔写真⑤〕この施設を私たちが改築することになり、子供の木育広場をコンセプトとして、基本計画案を作成しているところです。小さな子供が「木とふれあい、学ぶ」ということですから、子供たちの五感を最大限に引き出して、遊びながら木のぬくもりを感じ取る木育施設を提案したいと考えています。このように、〔写真⑥〕私たちは、三重県の取り組みに関わらせてもらっているうちに、子供の成長が伸ばせる、子供のための施設が至るところにあって、その施設がまちの住環境として必要であることを学びました。
　ここから質問に入ります。〔写真⑦〕私たちは、「みえこどもの城」と「三重県民の森」を例に挙げ、子供たちの五感を育てるための施設が必要なことを述べました。伊勢市にもこのような子供の施設はあると思いますが、よくわかっていません。私たちの設計の参考にしたいと思いますので、子供たちの五感を育てるための施設例をお教えいただければ幸いです。加えて、伊勢市が高校生と連携して行っている事業があれば、この取り組みについても教えてください。
　以上で、私たちの質問とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◎皇學館大学濱口祥夏議長
　教育民生委員会副委員長。

●辻孝記教育民生委員会副委員長
　それでは、伊勢工業高等学校の小川歩佳さん、田端稜平さんの御質問にお答えいたします。一つ目、子供たちの五感を育てるための施設についてと、二つ目、伊勢市が高校生と連携をして行っている事業について、この２点について御質問をいただきました。
　まず、１点目の子供たちの五感を育てるための施設についてでありますが、子供たちが遊びながら、木のぬくもりを感じ取れるような木育施設はないのが現状ですが、市内には、子育てセンターきらら館を始めとする子育てセンターや保育所などの施設があります。子育てに対する不安や負担の軽減を図ることを目的とした事業を実施しており、親子が触れ合える講座として、リズム遊び・おもちゃ作り・絵本の読み聞かせなどを行っています。また、児童センターや児童館なども、児童に遊びを通じて運動に親しむ習慣の形成、技能の習得等の必要な指導を行い、児童の健全育成を図ることを目的として、工作・料理教室・親子教室などを行っています。
　これらの施設には、木を材料とした椅子やテーブルなどもありますので、今後、皆さんが取り組まれている設計等の技術を生かしていただけるような事業を行う際には、ぜひ御協力をいただきたいと思います。
　次に、２点目の伊勢市が高校生と連携を行っている事業についてでありますが、本日、高校生議会に参加していただいている高等学校と小中学校が連携している事例を御紹介させていただきます。
　まず、最初の例でありますが、明野高等学校と明野幼稚園では、年間を通じて、高校体育祭への園児の参加や園児の農業体験、クッキング体験、高校生の保育実習の受け入れ等が行われています。また、明野高等学校と城田中学校・小俣中学校では、高校生が豚の飼育について講義を行い、地元の精肉店の豚肉と高校生が育てた豚の肉を食べ比べ、命の大切さと食について学ぶ「いのちの授業」が実施されています。
　次に、二つ目の例でありますが、宇治山田商業高等学校と有緝小学校では、６年生が授業で学んだ英語を、国際科の高校生を相手にコミュニケーションを図る語学活動が今年の 11 月に予定されています。また、宇治山田商業高等学校と浜郷小学校では、英語クラブの高校生が７月と 12 月に小学校の３・４年生の外国語の授業に参加し、高校生は日頃学んだことの実践の場として、小学生は高校生の英語に触れることで、英語力が身につくという取り組みが行われています。
　次に、三つ目の例でありますが、宇治山田高等学校と早修小学校では、合同避難訓練の実施と陸上記録会に向けての練習があり、合同避難訓練では、小学生が運動場に一次避難した後、二次避難で宇治山田高等学校へ避難する際に、高校生が小学生を誘導しているほか、避難後は体育館で一緒に防災についての話を聞く授業も行われています。また、連合陸上の練習では、６年生が高校の陸上部を訪問し、リレーのバトンパス等、陸上部員から各競技について指導が行われています。
　ほかにも、環境課と宇治山田商業高等学校との共同によるごみ分別アプリの作成や企画調整課と市内７校との連携による伊勢市オリジナル原付ナンバープレートのデザインの

考案など、伊勢市が高校生と連携をして行っている事業は多数あり、限られた時間内では、全てを紹介することはできません。

今後とも伊勢市の取り組みに対しまして、関心を持っていただき、皆さんとも何らかの形で連携ができれば大変ありがたいと思います。以上をもちまして、伊勢工業高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。

◎皇學館大学濱口祥夏議長

伊勢工業高等学校。

〇伊勢工業高等学校

【６番　小川歩佳議員、７番　田端稜平議員】

答弁ありがとうございました。伊勢のまちにも多くの子供たちを育てるための施設があって、大勢の方が利用されている様子が伝わってきました。また、二つ目の答弁では、伊勢市と高校生が連携を行っている事業内容を教わりました。どちらも、将来を担う子供たちや私たち高校生の目線に立った企画で、私の知らないことばかりで大変勉強になりました。今後も伊勢市と連携できるチャンスをいただければ、ぜひ勉強させていただきたいと思います。本日は、貴重な時間をありがとうございました。

◎皇學館大学濱口祥夏議長

以上をもちまして、本日、参加をいただきました７校からの質問と答弁を終わります。

それでは、ただいまより、伊勢市高校生議会を企画・立案しました、広聴検討分科会の宿典泰会長から感想をいただきます。

〇宿典泰広聴検討分科会会長

本日は御参加をいただきました高校生議員の皆さん、長時間にわたり、本当にお疲れさまでした。

「伊勢市高校生議会」を企画・立案をさせていただきました広聴検討分科会会長の宿でございます。

今回、初めての開催にもかかわらず、公立高校・私立高校合わせて、７校 18 名の御参加をいただきました。大変熱心に御質問をいただきました。まずもって、御参加をいただきました皆さんを始め、各高等学校の関係者の皆様に、御礼を申します。ありがとうございました。

本日、皆さんからいただきました質問内容は、外国人観光客の受け入れや電子マネーの普及など、市民生活に大変密接をした課題であったり、中心市街地の活性化や少子化対策など、大きくまちづくりの課題として質問をされました。また、高校生との連携など、市政に対する御提案もたくさんいただきました。

質問内容の作成にあたりましては、伊勢市の現状や課題の抽出をしていただき、課題の解決に向けて、高校生として何ができるかを一生懸命に調査・研究をしていただいたものだと十分伝わってきました。

今回、皆さんが取り組まれましたことは、今後、就職をされたり、社会人になったり、

課題を解決するための方策を立案する際にも、きっと役に立つのではないかな、こんなことを思います。
今回の経験を生かして、様々な分野で御活躍をされることを祈念いたしまして、私からの感想とさせていただきます。本日は、本当にお疲れさまでした。また、ありがとうございました。

◎皇學館大学濱口祥夏議長
宿会長、ありがとうございました。
最後に、主催者を代表しまして品川幸久副議長から挨拶をさせていただきます。

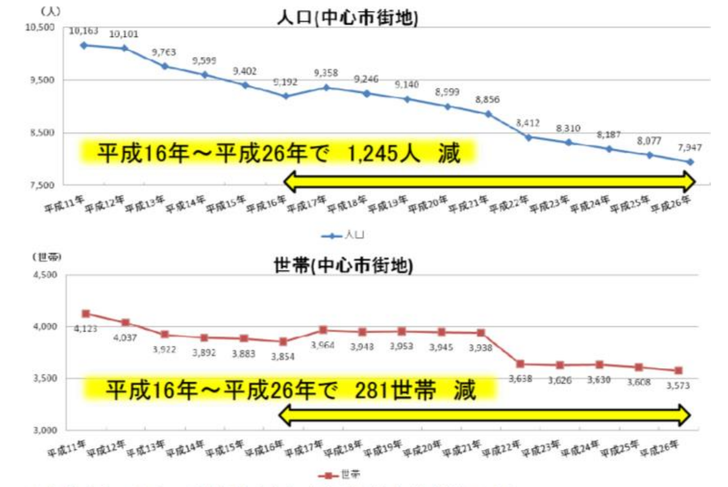
○品川幸久副議長
本日参加していただきました皆さん、本当にお疲れさまでした。
伊勢市議会で副議長を務めております品川幸久でございます。
皆さん、緊張されるのかなと思っておったんですけれども、非常に堂々と質問をされておるのでびっくりいたしました。すごいレベルやなと、私ども本当にびっくりしたような感じでございます。
現在、伊勢市議会では、市民の皆さんに議会っていうところを広く知ってもらうように、一生懸命活動をしております。また、議会の活性化っていうことも一生懸命取り組んでおるところでございます。きょう、「伊勢市高校生議会」の高校生の皆さんがふだん生活の中で、どんなことを伊勢市に思っているのか、直接意見を聞かせてもらいました。私どもとしても非常にいい機会となったと思っております。
今後はですね、高校生の皆さん、若い年代の皆さんの視点もしっかりと議会、市のほうに向かってですね、議論を進めて充実をさせていきたい、このように思っております。
また、高校生の皆様におかれましてはですね、今回の経験を通じて、市政、また市議会にも一層の御理解を高めていただく、いいきっかけになったのかな、このようにも思っております。今後ともこのような意見交換をさせていただける場所を広く持たせていただきたい、このように思っております。引き続きまして、伊勢市議会の活動に御理解と御協力をいただきますようお願いを申し上げたいと思います。
最後になりますが、開催に当たりまして、御尽力をいただきました各高等学校の関係者の皆様、また引率の先生方、そして傍聴にお越しいただきました皆様にもお礼を申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。
本日は、本当にありがとうございました。

◎皇學館大学濱口祥夏議長
品川副議長、ありがとうございました。
以上で、本日の議事内容は終了いたしました。
これをもちまして「伊勢市高校生議会」を閉会いたします。
御参加いただきました皆様方、ありがとうございました。

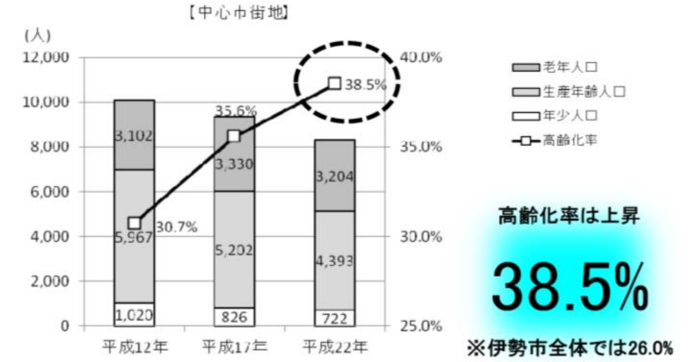
閉会　午後３時45分

参考資料　高校生議員によるパネル資料

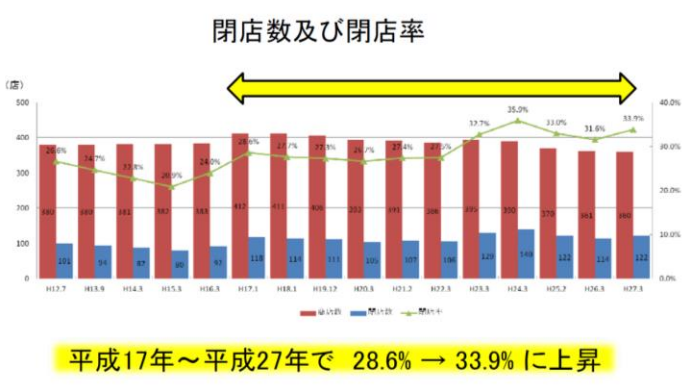
【皇學館高等学校】



※伊勢市ホームページ「伊勢市中心市街地活性化基本計画」より

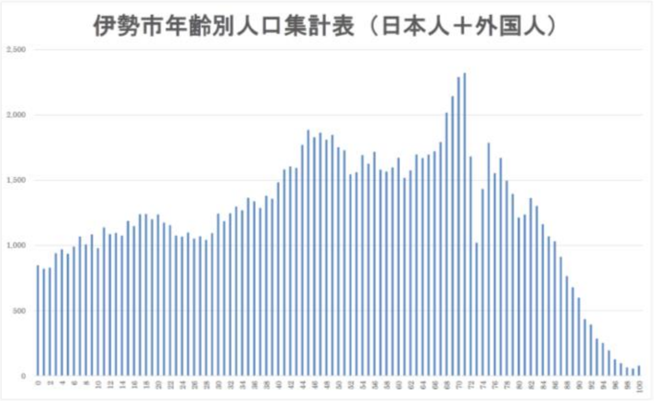


※伊勢市ホームページ「伊勢市中心市街地活性化基本計画」より



※伊勢市ホームページ「伊勢市中心市街地活性化基本計画」より

【英心高等学校】



【伊勢工業高等学校】

[写真①] 三重こどもの城　風景

[写真②] 三重こどもの城　格子の机

[写真③] 三重こどもの城　学んだこと　安全

[写真④] 三重県民の森　風景

[写真⑤] 三重県民の森　模型写真

［写真⑥］ 三重県民の森　学んだこと

［写真⑦］ 質問内容